

屋外用分割形変流器の ラインアップの拡充

■ 小林 晃一
Koichi Kobayashi

1 はじめに

2020 年度から始まった電力の発送電分離に伴い、電力会社の送配電部門の中立性がより明確に求められることから、電力取引用計量器の設置が義務付けられている。既存のケーブルに直接設置できる分割形変流器（以下、CT）を用いて既存発電設備の改修作業の負担削減に寄与してきたが、より高い電圧クラスに使用されている太いケーブルにも対応できる CT を開発したので紹介する。

2 CT の定格仕様とラインアップ

CT の仕様ならびに分割形 CT のラインアップは、表 1 のとおりである。

開発した CT はケーブル貫通穴径がφ190 と既存の CT の貫通穴径φ125 よりも大幅に広げたことにより、これまでに設置してきた発電設備よりも高電圧および大電流のケーブルにも設置することが可能となった。

また、絶縁に油を使用しないため、お客さま設備の不燃化に寄与している。

表 1 CT の定格仕様，ラインアップ

項目	仕様		
形式	新規開発品 OCA-16	OCA-11BZ	OCA-13Z OCA-13AZ
設置場所	屋外，屋内		
準拠規格	JIS C 1736-1, -2 (2009)		
耐電圧	ケーブルにて絶縁を確保		
定格周波数	50 Hz または 60 Hz		
定格一次電流 適用範囲	750 A～ 4,000 A	750 A～ 1,200 A	1,200 A～ 3,000 A
定格二次電流	5 A		
定格二次負担	5 VA～15 VA（一次電流値による）		
確度階級	0.3 W		
ケーブル貫通 穴径	φ190	φ125	φ125
質量	75 kg	61 kg	38 kg
備考	封印カバー付		



図 1 CT 設置状況



図 2 封印カバー設置状況

3 まとめ

東光高岳の分割形変流器は東京電力パワーグリッド（株）、関西電力送配電（株）、四国電力送配電（株）、九州電力送配電（株）へ納入している。今後、東光高岳の変成器製品が、発送電分離に対するお客さまの検討から据付までの負担削減へさらに貢献できるように取り組んでいく。

小林 晃一

計量事業本部
モールド変成器製造部 設計グループ 所属